

かねざわ 第93号

2025年（令和7年）8月

- (P-2) 探訪（第6回学習会）のお知らせ 「みなとみらい40年」
- (P-3) 2025年度新入会員との懇談会
- (P-37) 浮雲俳句会 20周年記念俳句集

目次

運営委員会からのお知らせ

- 2 探訪（第6回学習会）のお知らせ
- 3 2025年度新入会員との懇談会

学習会記録

- 7 第1回学習会
『波除八幡・長浜千軒伝承に
科学的メスを入れる！』
- 13 第2回学習会
『室町時代の鎌倉と金沢』

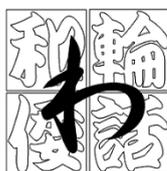
分科会からの便り（活動記録）

- 18 「寺社を巡る会」
- 23 「古文書を読む会」
- 24 「ふれあいの道歩こう会」
- 27 「懐かしの映画を観る会」
- 33 「パソコンを使いこなす会」
- 36 「浮雲俳句会 20周年記念俳句集」

行事予定

- 44 2025年9月～11月の予定

【お願い】 会員の皆さまの寄稿をお待ちしています



金沢区生涯学習“わ”の会

ホームページ：<http://Kanazawa-wanokai.in.coccan.jp/>

メール：asahina5rou@gmail.com

2025年度 探訪（第6回学習会）のお知らせ 『みなとみらい40年』

「みなとみらい21」事業は1983年の着工から40年が過ぎ最終段階に入りました。
ここで、ランドマーク等の象徴的なスポットを見て回ります。
下記内容で探訪を実施しますので、多数のご参加をお待ちします。

「実施内容」

1. 探訪地：みなとみらい地区

コース：桜木町駅→ランドマークタワー→ドックヤードガーデン→神奈川大学
みなとみらいキャンパス→臨港パーク→JICA 海外移住資料館→自動車道
→桜木町駅（歩行距離約3キロ）

ガイド：NPO 法人横濱金澤シティガイド協会

※ 都合により、コースが変更になることがあります。

2. 日時：10月10日（金）9時30分～13時00分 少雨決行

※ 荒天等で探訪自体を中止する場合は、当日朝6時45分までに電話連絡
をするとともに“わ”の会ホームページに掲載します

3. 受付時間：9時00分～9時30分

4. 集合場所：JR 桜木町駅東口

※ 受付順で10名～12名ごとに班編成をします。班編成後、順次出発と
なります。

5. 持ち物：名札（着用）、飲料、雨具など

6. 費用：無料

7. 申込み期限：9月25日（木）

8. 緊急連絡先：鶴岡重典 探訪実行委員長 080-5172-6151
浜辺隆文 探訪実行副委員長 090-8501-5634

2025年度入会会員との懇談会

日 時：2025年7月19日（金） 9：50～11：50 場 所：金沢公会堂第2会議室

出席者：新入会員：氏家、河津、久野、島村、坪井、野尻、三吉、村杉、山本、根津、松本

（敬称略） 分科会：寺社/横山、古文書/真田、俳句/中村・鈴田、PC/橘、ふれあい/江口、映画/鶴岡

運営委員：（鶴岡）、星野、福嶋、浜辺、岡、（江口）、斧原（全23名）

資 料：2025年度総会資料（5月）

概 要

新入会員懇談会は、新入会員に“わ”の会の理念と活動を知ってもらい、早くこの会へ溶け込めるよう毎年開催している。星野副代表の進行で新旧お互いに自己紹介し、分科会の活動説明をした。懇談会後に開いた懇親会も盛り上がり“わ”の会の魅力の一端を感じてもらえたようだ。

1. 懇談会開催挨拶（鶴岡代表）

今年度は20名もの入会者があり本日は11名が参加。かつて新入会員の定着率が低くその改善のために10年くらい前からこの懇談会を始め、今では毎年9割の方が継続される。活動理念は「金沢の歴史」を学ぶことであり、最終目的は「豊かな生きがい作り」。しかし学習会だけではその実現は難しい。この会の特徴は、学習会と分科会が、車の両輪のように活動していること。皆さんも是非分科会に参加してほしい。さらに私は今や定着率の段階を超え、新入会員の皆さんが、この会の運営に参加され「共にこの会を支えてくれること」を期待している。

2. 自己紹介

運営委員、分科会代表、新入会員の順で自己紹介。

以下は、分科会代表、新入会員の発言概要。

分科会代表

- ・鶴岡さん：東朝比奈に住んでいる。入会契機は、六浦地区センターにあった“わ”の会のチラシ。分科会には4つ入っていて、運営委員会を含めると5つ入っている。多い方だが入ろうと思えば入れる。

自分の意思で入ったのは映画、パソコン、あとの寺社、ふれあいは誘いを受けて入会した。

- ・江口さん：まずふれあいの道歩こう会に入り、次に“わ”の会入会を勧められ、入会と同時に運営委員に誘われ13年になる。元は東京で富岡に10年住み、その後西柴に引っ越した。感じたのは、富岡と金沢文庫、六浦では文化が違うこと。“わ”の会に入ってその差が分かってきた。学習会は集まって先生の話聞くが、終わると帰るだけで、生涯学習で大事な人との繋がりができない。そこで同じ趣味を持った人達が集まって仲良くする分科会の役割が大きい。折角“わ”の会に入ったら人との繋がりを増やしてほしい。学習会の時にもお互いに声を掛け合って、この会を発展させていって欲しい。お願いします。
- ・横山さん：横浜に住んで2-30年。サラリーマン時代は会社人間で、近所の知り合いは5・6人しかなく、町で出会う人は誰も知らなかった。定年になったらやりたいことのひとつに歴史の勉強があった。寺社を巡る会に興味を持ち、その関係で“わ”の会にも入った。歴史は詳しくない。寺社の時代より縄文時代に興味がある。地元の勉強をしたいのと人との繋がり・交流を持つことが目的。街を歩いても以前は女房の知合いの方が多かったが、今は私の方がはるかに多い。住まいは能見台の駅近くのマンション群の一角です。
- ・真田さん：古文書を読む会の真田です。新潟のド田舎・農村地帯で生まれた。実家は神主で家柄は古い。小さいころ悪戯をして土蔵に入れられた時、2階

に黒いお櫃があり、開けたら古文書だった。それが初めての出会い。長男だけれど後を継がずサラリーマンになった。10年の海外勤務の後、横浜に住もうと東朝比奈の新築住宅に応募したら当選した。勤務地東京まで2時間もかかるが、折角8倍の倍率を乗り越えたので家内と相談してここに決め、以来45年住んでいる。実家の関係で歴史が好きだった。リタイアしてから歴史をやるために古文書を勉強した。歴史教科書は活字体で出来ているが元は古文書。古文書が一番の基礎なのに戦後は学校で教えなくなったのは残念。

- 橋さん：パソコンの会の代表。定年になってやるのがなく、近所を散歩しても面白くない。区役所で“わ”の会の入会案内を見た。先々代の代表から有名な学者の先生が来ると聞き、話を聞きたいと思った。入会したが、年会費3000円で年間8回しかない。これでは友達はできない。自分の趣味に合わないテーマもあるし少し足が遠のく。そこで分科会があることを教えてもらった。選び方は消去法。当時足を痛めていたので歩く会はダメ、古文書は古文が嫌い、俳句は才能無し、残ったのがパソコンだった。現役時代使っていたので入っても何とかなった。年間24回の集まりなので友達もできる。そこで映画の会にも誘われ入った。女性はお友達を作るのがうまいが男性はダメ。地元で友だちはいないが、東京まで会いに行くのは億劫。うまい具合にこの会の人たちはお酒が大好き。ちょっと行こうかということで交流が始まり、生涯の友もできてくる。高尚な理念より日常の中で生まれる絆こそ大切だと実感している。
- 中村さん：俳句の会の世話役です。埼玉北部の生まれ。大阪で20年強勤務後、横浜で20年働き15年前に卒業。一般サラリーマンと同様で近所の方との交流が出来ていない。何かしなければと思っていたところ能見台のマンションの町内会役員が順番制で回ってきた。その仲間から“わ”の会を紹介され、入会して4年目。今は俳句の会の世話役、寺社の会のサポーター・お手伝い、など楽しくやって

ます。この会で話しているとよく文科系か理科系かと聞かれるが、私は体育会系です。

- 鈴田さん：夫の転勤で能見台に来た。息子たちを育て一段落したところで“わ”の会を知り、かれこれ30年。寺社を巡る会、古文書、映画の会、俳句会に入っているがみな楽しい。だから全ての分科会に入ってもできると思う。私が入ったときは全員が年上でしたが、今は上の人もいるけれども少なくなりちょっと寂しい。

新入会員

- 氏家さん：東京、横須賀、金沢と移り住み金沢は10年ちょっと。こういう所に参加していなかった。逗子の方で目の見えない人に翻訳・本読みのボランティアをしていたが、近所付き合いがなかった。年を重ね、地元を知ることも大事かなと、歩く会、古典を読む会に入っていたがコロナでだめになった。“わ”の会で皆さんと話し合える場があるとよい。ホームページを見て、映画は見たい、歩くのも好き、寺社がいいのかと迷うが、膝の調子が少しよくないので大丈夫かと心配。歴史の話も聞きたいけどハードルが高いかな、と迷っている。
- 河津さん：香川県出身。昔は塩田とみかんとイチゴだけ。今はかなり有名。小学生のころ臨海学校で一斉に海に入り泳いだ記憶がある。横浜に出てきて40年。勤務先は上大岡にあった。並木町で30年住んでいる。かみさんも歴史が好き。三代前は寺子屋をやっていて、神棚の下に古文書があり興味を持った。歴史をどこで勉強したらよいかわからず、ネットや区役所で調べ入会した。
- 島村さん：川崎生まれ。親が昭和37年に富岡に引越しそこで育った。海外勤務が長かったが帰ってきて家を親の近くにと考えて富岡西に買い25年になる。弟が一人いるが同じことを考え富岡西に住むようになった。役職定年となり別の会社で契約社員となったが、この3月でやめ、やりたいことをやることにした。歴史が好きで郷土史を学ぶために“わ”の会に入った。
- 坪井さん：富岡7丁目、小学校の近くに住む。う

みねこの会がつぶれてこちらへ移った。皆さんまじめで理工系の人が多い。パソコンで 28 年「泥狸」という名でニュースを流している。ここへ出るときは人間に化けている。生まれは野毛。戦争から戻ったら焼け野原だった。昭和 42 年に富岡に来た。学校を卒業するとき 9 枚の始末書（第 2 位）を読みあげられた。今日のかみさんにおとなしくしていなさいと言われて出てきた。

- 根津さん：生まれは静岡の浜松。“わ”の会はシティガイド協会の会合で図書館に行ったときに貼ってあったチラシで知った。途中入会でもよいということで、細川先生の講義から聞いた。金沢区には縁があり、以前富岡や洲崎に住んでいた。思い出がある。総会の次第を見て皆さん優秀な方のようにやっていけるかと心配している。よろしくお願ひします。
- 野尻さん：後期高齢者。この歳でも大丈夫かなと思ったが何とか認められた。昭和は関西、平成はずっと横浜市民、能見台に住んでいる。昨年 10 月で無職になった。人との付き合いを深めたいと OB 会、同期会等の集まりが月 2 回程度あり積極的に参加したが、どの会もメンバーが減りさみしい思い。“わ”の会は 100 人強のメンバーがいて出席率も高い。組織的にしっかりした運用をしており、隠れた魅力もあると思う。その仲間にしてほしい。会社を辞めてふと思ったのは、最近、金の値段が上がったが、金沢という地名は金と関係があるのかなど、そんなことを知りたい。
- 松本さん：金沢区大道の生まれ。結婚し就職は東京の会社に。途中で退職し社会保険労務士になった。東京の客中心。地元とのつながりはここ 10 年ほど。自治会役員や民生委員などやったがコミュニケーションがいまひとつ。大学で聴講を受けてもそれで解散しておしまい。自治会の仲間から“わ”の会を紹介され HP を見た。映画の会はピッタリだが見て終わりではつまらない。皆さんの話を聞いてどうするか決めたい。
- 三吉さん：小説家。2011 年 5 月で広告代理店を

退職。退職前の有給で、東日本大震災後の石巻へ 10 日行った。その後東海道を継ぎはぎしながら歩いている。出版社から本を出さないかとの話、歴史小説を出版した。鬻りの城（本屋大賞にノミネート）。翌年旧海軍航空技術廠（日産追浜工場の前）で戦闘機秋水の 15 名の特攻を阻止した教官の話をもとめた。次を書いているときにストレスで胃がんとなり手術。東海道の紀行文を毎月 1 本原稿 50 枚書いていたが、コロナでストップ。ドイツ空爆で B17 が消えた事件を書き、東海道も踏破した。その他、歴史街道スケッチ旅など。

- 村杉さん：47 年金沢に住んでいるが、地元との関わりは薄い。7 年前常勤をやめ、全国の名所旧跡はほとんど回った。友だちも全国にいたが、そのうちコロナで行けなくなった。うみねこに参加。47 年金沢にいて金沢のことを知らない。しかし、それも終わってしまい、“わ”の会に入った。歩くのが好き、面白い分科会がある。
- 山本さん：生まれは小田原の農家。公団住宅にあたり、金沢並木に住んで 43 年。親の反対を押し切って結婚、相続も放棄した。仕事をやめてぼけてしまうのが心配。何かないかと探していたら地区センターで“わ”の会を知り、入った。

3. 分科会紹介

① 浮雲俳句会（中村世話役）

私は新参者（3 年）。会員は 12 名。女性 5 名。毎月 1 回句会があり、年 1 回 10 月に吟行会という、あたりをぶらぶら歩いて俳句を詠む。句会では毎回 4 句を投句、1 句は兼題（テーマ）で詠む。以前は主催をおく句会だったが、その方が亡くなり以降は合評し指導はしない方式に。成果は HP で公開。来年 20 周年で、俳句集を作り会報に掲載し 9 月に記念俳句会と懇親会をやる予定。メンバーの 7 名が発足時からの会員。4 句を作るのは苦労するが楽しくやっている。E メールを活用。わたしは後期高齢者になったが会の中では一番若い。年会費 1000 円。是非入ってください。

②パソコンを使いこなす会（橋代表）

パソコンの使い方がよくわからない人、ぜひ来てください。会の名前の使いこなすはやや誇張。昔は、メール、ワード、エクセルができれば「使いこなす」と見られた。今やスマホは当初の月ロケットより性能が高くAIも登場。AIに詳しい方、教官として入会してください。会員は17名。雨降り、二日酔いの時でも会場に行かず、Zoomで自宅から参加できる。家族から優しく教えてもらえるのも3回が限度。この会なら仲間と楽しく学べる。PCの技術も進み学ぶ範囲も広がったので、今は4人の先生がいる。年会費1000円。総会資料に学習予定表がある。

③懐かしの映画を見る会（鶴岡代表）

会員数70名、最大の分科会。何故多いのか。1年24本で会費1000円、コスパ最高。内容もよい。映画を観る前に解説書を渡し、終わってからも解説がつく。ここまでは他でも割とやっているが、鑑賞後の映画評メールがすごい。ここまでやっているところはない。入りたい人は当日（第2・4月曜12:00～）金沢地区センターへ、1000円を持って「入会したい」と言えばよい。

④古文書を読む会（真田代表）

総会資料の12ページ。会員は14人。月1回この部屋でやっている。今は江戸時代のお坊さんが箱根へ行き、江の島・金沢に寄った記録を読んでいる。これは変体仮名という一番難しい文字があちこちにちりばめられている。例えば「安＝あ」「愛＝あ」など。古文書は慣れです。これは今年いっぱいまで終え、来年以降はやり方を変える。今まで皆に予習してもらったがそれもやめる。古文書の会は始まりから24年。金沢の古文書はほぼ読みつき、範囲を広げて面白そうなものを探して読んできた。これからは歴史を古文書を基に話す方法にする。江戸だけでなく、日本の歴史全般が対象。私も86歳。20数年やってきて疲れが出てきた。後しばらく、このようにやっていく。例えば法隆寺夢殿に救世観音がある。これが発見時布でぐるぐる

巻きにされていたが何故かなど。興味ある方・入会希望者は懇親会で鈴田でも、あとで真田に電話をしてくれてもよい。

⑤寺社を巡る会（横山代表）

総会資料10～11ページ。タイトル通り寺・神社を歩いて歴史や由緒を学ぶ会。資料を配り話を聞く。ガイド付き。宿題はない。23年目で少し前20周年をやった。鎌倉、横須賀、金沢の3つを中心に活動。毎月1回第1木曜日が原則。2月・8月は座学でDVD・講演とし9月も暑いので博物館を訪ねる。秋にはバス探訪。今年は山梨県武田家ゆかりの寺をめぐる企画。昼食・アルコール付きで交流を図る。会員35名、準会員（足が弱り交流だけでもという人）12名。歩くのはしんどいのでお寺での話を多くしている。ガイド付きでお金がかかるため、会費は1000円/月。

⑥ふれあいの道歩こう会（江口代表）

21年経つ。15名の会員とビジター会員6名。平均年齢79歳。最高86歳、最若65歳。体力が落ちて山が高く感じられるようになり、低山中心とし街歩きも。ただし山の装備は必要。21年間無事故を続けてきた。安全第一でやっている。山にいたことは歩けることで、健康な証拠です。9月は大菩薩嶺山行を計画したが平日はバスが運行されないので、日和田山に変更。詳細はホームページを見てください。興味ある方は江口まで問い合わせてください。

4. まとめ（星野）

- 各分科会の予定は重複しないように調整されている。複数入会できるので多数入ってください。
- ここにお集まりの皆さん多士済々。意見交換はここでは時間がないので懇親会でやりましょう。

5. 懇親会

懇談会の後、カバースキッチンへ移動し懇親会を開いた。18名（新人8、分科会5、運営委員5）が参加。途中席替えして多くの人と話がはずみ、大変賑やかな懇親会となった。

2025年度 第1回学習会

『波除八幡・長浜千軒伝承に

科学的メスを入れる！』

編集委員 中村 猛次

開催日：2025年5月10日（土）
11:00～12:30

会場：能見台地区センター

講師：東北大学大学院社会人ドクター
岡 和彦氏（“わ”の会会員）

【はじめに】

応長元年(1311年)に金沢沿岸を襲ったと伝わる大津波を、土木的観点から解き明かすことに挑戦。今と将来の防災に生かすための活動内容と、現時点で解明できたこととお話いただいた。



【中世(鎌倉、室町時代)の災害記録】

中世鎌倉、室町時代の災害記録としては「観世音菩薩和讃」しかなく、時代を遡れば遡るほど古文書的な情報は少なくなる。金沢文庫には鎌倉幕府の公式記録である「吾妻鑑」も所蔵されており1241年に発生した「仁治地震」など200件の地震・津波に関する記述がある。「応長津波」は1311年で、吾妻鑑自体が1266年で途絶えており、「応長津波」についての記述は吾妻鑑には無い。中世の南関東における災害の記録は、「北条九代記」に延慶3年(1310年)の「延慶大洪水」、正和5年(1316年)の「正和地震」があり、さらに「大鎌倉日記」に「明応地震」(1498年)がある。現在「応長津波」のように現東京内湾のイベントを記したものは「観世音菩薩和讃」しか見つかっていない。

【伝承「波除八幡」、「長浜千軒」口伝について】

「応長大津波」による津波で富岡村は助かり、長浜は流された。富岡村は富岡八幡宮の鼻と言われた岬で、地形的な要因で助かったのだが、八幡様のご加護で助かったという事で、村人は八幡様への崇敬の念を更に厚くした。現在も富岡小学校では毎秋「発表とみおかタイム」で寸劇として児童達が演じ伝承している。永く伝承されているが、科学的解明の試みは少なく、平山次晴先生の先行事例のみである。

【「応長大津波」についての傍証】

着目したのは、並木地区というのは埋め立て地だが社会インフラとか、事業所、住区とか整備されている。整備される際に膨大な調査がされている。それは、横浜市、住宅公団、事業所を建てる時のボーリングデータがあり、それを使って情報を応長津波の痕跡とか、伝わってきていることを傍証できないか、逆の発想でこれらの手段・手法を取った。

横浜市が開示したデータはまばらだが、サンプルも残っている。何処までが軟弱で何処からちゃんとした岩盤になっているか、何処に杭を打てば良いかなどある。これらを活用して災害が頻発している東京湾岸の災害の防災に資する結果が得られないか研究している。

【科学的メス(1)の手法・結果・考察】

過去の公共事業で実施したボーリング調査や UR が実施したボーリング調査の結果のデータを ArcGIS(Pro)用いて、臨海部地下の古地形や津波で水没したと伝わる砂嘴の位置、形状を面的、三次元的推定又は特定し図示化した。

富岡町の沿海部の先は浅い部分があるが、長浜千軒は沿海部全面が浅くなっている。津波の性格として、深いところから浅くなると、波が立ってくる。長浜千軒の直前での浅くなった海底地形が禍を起こしたのではないかと考えている。

埋め立て事業施工中に樹木の根株が発見された。これが松並木の痕跡で、並木という名前のいわれになっている。富岡八幡宮の「祇園舟神事」は夏場の大潮の時に、馬に茅舟で浅瀬を昔は 18 町(約 2Km)曳かせた。それだけ浅瀬が伸びていたということある。

【東京湾の地形について】

富岡八幡宮があって富岡は助かった。長浜千軒は流されてしまった。津波はどちらからどっちに向かって起きたのか。富岡村は富岡八幡宮の先に砂嘴があって防波堤、防潮堤代わりになっていた。長浜千軒は浅瀬で波が立って全滅してしまった。これは事実だと考えている。

南西方向から波が来たというのは、東京湾の海図を根拠にしている。横浜沖は深いところから始まっており、東京湾大渓谷と言われている。これは険しい地形で、所謂海退期で氷河期と重なる。利根川が流れまた東京川というのが湾に流れ込み、地震が起きるたびに隆起し、削られその度に谷が深くなっていく。そういう状態が繰り返されて、今の地形が東京湾の底にある。大型船のメイン航路になっている。

【科学的メス(2)東京湾海底地すべり説】

深い谷が出来ると地滑りが起きる。近いところでは関東大震災もあったが、残念ながら記録は残っていない。安政地震から元禄地震、南海トラフ、等の地上での被害の記録はある。ただ、海の底で何があったかの記録はあまりない。

これからいろいろな手法を使って海底を探っていくことになる。今までのボーリングサンプルと東京湾の水中ドローンを使った海底調査、また、人工衛星から電磁波を発生して、調査など先進技術もあり、お金はかかるが、調査することが出来る。根株等、木質材料の年代特定により、いつの時代のものなのか探していきたい。

【平山先生の結論(仮説)について】

平山先生は船の専門家であり、その関わりにある波の専門家でもある。平山先生の著書の「一夜で消えた横浜の村」にある、瀬戸神社裏にあるような海蝕台が、当時の長浜千軒にあったのではないかと。これは気象変動で海水面が上がったり下がったり、海岸を浸食したり、地震が起きて隆起したり地形が変遷している。

葛飾北斎の「富嶽三十六景・神奈川冲浪裏」の絵は科学者だという専門家に限って誇張されていると言う。平山先生は構図に描かれている高波と実際の三角波はフリークウエーブと対比され、可能性があるかと論じられている。また、水槽実験でも実際にあり得ることだ。

長浜千軒の被害原因について平山先生と私の大きな違いは、平山先生は北東からの風で大きな波が起きて、それが襲ったのだという。私は南東の海底で地滑りがあって、津波が起きてそれが襲ったという、見解の違いがある。これから更に研究していきたい。

【直近の被害】

2019年の15号台風が、記憶に新しいところです。幸浦・福浦の護岸がやられて浸水した昔の応長津波を彷彿させるような出来事だったと印象に残っている。今の護岸は修復されているが、今後も起こりえることであり、事実関係を調べて将来に備えたい。

【おわりに】

「応長大津波」の2つの伝承である「波除八幡」「長浜千軒」の口伝、文書の解説と、科学的メス(1)として平山次晴先生の波浪による「長浜ながれ」説および科学的メス(2)として岡先生の「東京湾地滑り」説を詳しくお話しいただいた。今後はボーリング調査のコアサンプルである根株等、木質試料の年代特定を試みる。また「応長津波」の更なる検証のために、水中ドローン等による前面海域の海底調査、既往土質試験記録、コアサンプルの再評価などさらに究明されることを伺った。津波による被害は2011年の東日本大震災や、昨年の能登半島地震が記憶に新しいところです。岡先生の研究、活動がこれからの防災、減災にさらに生かされることを期待いたします。

大変ありがとうございました。



波除八幡・長浜千軒伝承に科学的メスを入れる！

講師：岡 和彦氏

出席者		一般会員	委員	計 (出席率%)	ビジター	合計	アンケート (提出率%)
	男	48	6	54 (62.8%)	0	45	
	女	18	1	19 (65.5%)	0	14	
計		66	7	73 (63.5%)	0	72	46/66

①学習会内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった	チェック無し
13名	22名	9名	0名	2名

- ・貴重な資料を交えたご説明ありがとうございました。
- ・コアサンプルのデータを解析して地滑りプラス新しい風向の説を提唱された過程を聞いて面白かったです。今後の進展を期待します。
- ・東京湾の海底調査について今後楽しみ
- ・長浜千軒伝承に科学的メスを入れたということは素晴らしいこと。身近に感じた。今後の災害対策に行かされれば良いと思う。
- ・津波の原因は地震だけではないこと。海底の研究もなされていること等初めて知ることが多く、興味深い内容であった。
- ・長浜千軒伝承は地元の話として是非講演で知ろうとしたがわからなかった。残念である。
- ・自分が住んでいる近くの話で興味深く伺えた。将来的にくる災害に備える必要があることが良くわかりました。行政は動いてくれるのでしょうか。短時間でよくわかりました。
- ・勉強になりました。
- ・地形の話。波形上の話。
- ・神仏八幡神、仏教ご詠歌の非科学的な昔の防災情報を捨てた研究を願います。
- ・近場の話なので乗れた。
- ・通常と違った視点での講演が良かった。
- ・内容的に難しかった。専門的すぎる。時間的に短く、もう少しゆっくりと説明していただいても～。
- ・門外漢のテーマであったが、学術的な究明がされていること。 質疑応答の高さに感銘した。
- ・講演が早く終わってしまい残念でした。もう少し詳しく説明してほしい。しかし、パワーポイントの資料は見やすかった。

- ・専門的すぎてわかりにくかった。
- ・ご自分の仮説をデータに基づいて説明していただいた。
- ・平山先生の「波浪説」に対して、新たな「海底地滑り説」は大変興味深く、さらなる調査研究結果が楽しみ。
- ・土木的な知識から長浜の伝承を聞くことができて良かった。
- ・テーマは非常に興味があり面白かったですが、プレゼンテーションがわからなかった。(説明があまり上手でなかった)
- ・今までの切り口と異なった見解を聞いて面白かった。今後の研究の進展を楽しみにしている。
- ・専門的データで多少理解しにくかった。災害の状況等わかりにくかった
- ・資料が良い。
- ・富岡八幡宮と津波の関係がわかってよかった。もう少し地形と津波の関係の説明が欲しかった。他の例、葉山森戸神社などについても説明があるとより理解ができたのでは？
- ・科学的、工学的に話を聴いたことがなかったので、興味がわきました。
- ・内容が難しかった。
- ・当時の古文書（建長寺文書等）にも記述がなかった時間が戻りました。
- ・科学的な見地からの説明はとても面白かった。平山先生の説もリスペクトしているのも伝わった。

②岡講師にご講演頂きたいテーマ

- ・新しい情報があればよろしくお願いします。
- ・今後どういう防災対策をすればよいのか。個人レベルで協力できることは。
- ・防潮基準、横浜の防災。
- ・東京直下地震の研究との関連を含む減災について次回お願いします。
- ・更なる検証、調査結果を報告いただけることを期待
- ・台風 15 号のこと、高潮被害と改修工事のことを聞きたいです。
- ・この辺りで起きたことをまた科学的にメスを入れてほしい（伊勢宗瑞の小田原城攻めの話とか）
地学と歴史はとても結びつきが深いと思う。ボーリングデータを使って解明してください

③学習会の運営について

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. 良くなかった
18名	17名	8名	0名

記入なし3

- ・いつもありがとうございます。
- ・台風の件、身近で面白かった。津波の話が参考になった。
- ・質疑応答の時間を取っていただき、理解がより深まりました。
- ・説明がわかりやすかった
- ・運営がとてもしっかりしている
- ・津波の話なので興味があり勉強になった

- ・今後、金沢区で津波の被害を受けるのか？
- ・開始してからの運営は良かった。開始前に少し手間取りましたね
- ・運営、内容、進行いずれも素晴らしい。
- ・分科会の紹介がわかりやすく良かった。

④”わ”の会について、何でもお書きください。

- ・毎回楽しみにしております。
- ・新入会員 18 名素晴らしい。皆さんの努力で認知度アップ。運営委員の皆さんに敬意を表したい。）
- ・新入会員です。分科会も参加したいところですが曜日的に都合がつかず残念です。ビジターで参加したいと思います。今後ともよろしくをお願いします。
- ・色々な会に入りたいが、私事の用事があり参加回数が少なくなるのが残念です。
- ・会費はもっと上げてほしいと思います。3000 円は安いですから。
- ・この 1 年間も頑張ってください。ご苦労様です。
- ・初めて参加させていただき、しっかりした組織と運営を感じる事ができた。2 回目以降の学習会に期待を膨らませます。
- ・これからよろしくをお願いします。
- ・今日頂いた資料を見て、分科会への参加を検討したいと思います。今後ともよろしくをお願いします。
- ・わかれば金沢に関連したテーマなど。塩の道とか金沢藩のこととか？
- ・わの会は確実に充実、進化しています。運営ありがとうございます。

運営委員代表の意見・感想

毎年総会後の第 1 回学習会は“わ”の会会員に講師をお願いしています。本年度も例年同様、会員の岡和彦氏に「波除八幡・長浜千軒伝承に科学的メスを入れる！」と題した講演をしていただきました。

長浜千軒伝承については 2019 年 5 月にやはり会員の平山次清氏に講演をしていただきましたが、今回は「平山説：波浪・長浜流れ説」を尊重しながらも、独自のデータに基づく「岡説：東京湾海底地すべり説」を展開していただきました。

近年は、天候不順が常態化しており、地震・山火事などの自然災害も起きており 700 年以上も前のことですが、地元金沢の地で起きた災害だけに会員の皆様の関心も高かったようです。今後の研究成果を期待する意見が数多く出されました。

“わ”の会代表 鶴岡重典

2025年度 第2回学習会

『室町時代の鎌倉と金沢』

編集委員 星野 六夫

開催日： 2025年6月7日（土）

9:30～12:00

会場： 金沢地区センター

講師： 千葉大学 名誉教授 佐藤博信 氏

【はじめに】

今回初めて佐藤先生に講演頂いた。

最初レジュメの中の主要参考文献について触れられ、“わ”の会発行の「かねざわの歴史事典」を記し忘れたと詫びられたが、大変立派な参考文献でありよく活用しているとのことのお褒めがあった。

一般的には室町時代となると有名な武士の名がすぐには浮かばず、従来比較的関心が低かったが、最近重視されるようになってきており、本も多く置かれるようになったとのこと。幸いこの地にある金沢文庫には室町時代の資料も大量に保存されており、積極的な活用を薦められた。



【金沢：六浦の世界】

この地域は周囲と密に交流しながら成り立っていたが、特に次の二方面との縁が特徴的である。

- ① 房総半島、江戸湾：海との関係
- ② 鎌倉との関係：鎌倉の浜は浅瀬で船が出入り出来ないのので、六浦から人々が大変な苦勞をして海産物を運んでいた。六浦と鎌倉を繋ぐ道は業者が大量に行き交う場所だった。

この地には寺社が沢山ある（あった）が、立派なお寺があるということは富があるということ。一方、富が無ければ戦争は起きない。多くの争いがこの地で繰り広げられてきた。

【建武政権・室町幕府と金沢称名寺】

権力とは一瞬で滅びるものであり、鎌倉・六波羅の北条氏もあつという間に権力を失った。金澤北条氏に守られていた称名寺は、室町時代に入ってその存続に大変な苦勞をしたようである。

寺社は祈禱がミッションであるが、政権の祈願寺となることによりその見返りとして寺領を安堵された。レジュメの古文書資料は後醍醐天皇の綸旨案から始まるが、安堵にまつわる、足利尊氏、直義、義詮、義満等々からの古文書（一部花押の無い案文も含む）資料が紹介された。称名寺は政権が代わってからも足利氏の祈願寺として何とか生き残ることが出来たようだが、安堵状一つ得るためには「ツテ」が必要であり、その獲得のため莫大な金が必要だった。称名寺は極楽寺とは元々一体運営されていたが、その外にも末寺を増やし寺領を拡大する必要があったと思われる。

【金沢称名寺と釜利谷白山道】

白山堂は称名寺よりも早い創建で、独自の僧檀・寺領・文書を擁する寺院であつたらしいが、称名寺は白山堂の末寺化に拘った。能見堂から釜利谷を経て鎌倉に至る道が白山道と総称されたのは白山堂が指標的存在であつたからで、鎌倉時代（特に朝比奈切通開通前迄）にはよく使われたようだ。称名寺はここに集まる釜利谷地域の富が欲しかったのである。そして富の源泉の一つとして「カナクソ」というキーワードが出てきた。昨年度の学習会で釜利谷のカナクソについて教えてもらったが、大きな意味を持っていたのがわかる。

白山堂の位置は峠越えをする出入口に近いが、白山道にも（資料的には未確認だが）関所のあつた可能性がありらしい。また朝比奈と大道の境にある鼻欠地藏や白山道の磨崖仏の歴史的価値についても触れられ、保守が遅れなんと勿体ないと残念がられた。

【足利氏祈願寺】

金を得るために関所は魅力的な手段だが、簡単に設置できるものではなかつたようで、時代の権力構造に大きく左右される。第4代鎌倉公方足利持氏の頃までは関所をオーソライズ出来るのは公方のみで、管領職の上杉は出来なかつた。鎌倉道沿いにあつた常福寺（平安末期の創建だが、称名寺創建に伴い称名寺の末寺となつた）は持氏の祈願所で、門前に関所を設けその関銭を称名寺造営の費用に充てた。人別2文、駄別3文との記録がある。但し、近在の住人やお坊さんは免除とのこと。

因みに持氏の六浦庄支配は、瀬戸社、勝福寺、称名寺を中心に進められた。称名寺の常福寺を通じた大道支配、称名寺の白山堂を通じた白山道支配、瀬崎の勝福寺を通じた浦賀道支配という金沢・六浦と外界を結ぶ3つの道の支配が重要な位置を占めたという。だが大道の関所設置の12年後永享の乱が発生、六浦一帯は戦場となってしまう。

【おわりに】

先生は金沢に漂う次の「三つの香り」を強調された。①神仏の香り、②文の香り、③潮の香り。この地域への愛が感じられる。実は佐藤先生の生まれ故郷がたまたま私と同じ越後の新発田市だと知り、高齢になつた今、また同じこの香り高い金沢の地に住むという縁に私は喜んでいる。

大学の教壇を去ってから久しいと言われるが、講義の口調は若々しい。ネットを覗くと著書数は膨大で、近年もまた新著を出されているご様子。今後豊富な知見を披露頂けるものと楽しみにしている。

今回は時間不足で永享の乱がらみの詳細に入ることが出来なかつたが、次回を期待したい。またその前に、朝比奈切通を経て鎌倉へとか、白山道などを、今回得られた知見をレビューしながら時間をかけて歩き回ってみようと思う。



室町時代の鎌倉と金沢

講師：佐藤 博信氏

出席者		一般会員	委員	計 (出席率%)	ビジター	合計	アンケート (提出率%)
	男	47	5	52 (60.5%)	0	52	
	女	17	1	18 (62.1%)	1	19	
計		64	6	70 (60.9%)	1	71	45(69.2%) 45/65

①学習会内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった	チェック無し
22名	21名	0名	0名	2名

- ・ 佐藤先生の永年にわたる研究、知見に基づく当地域の中世のお話しがうかがえたのは非常にありがたいと思いました。ご講演テーマの深さ、広さから考えると2~3回に分けて、もう少し時間をかけてお話をいただくとさらに興味深いことが伺えるのではないかと思います。
- ・ 地域の話なので興味を持って聞けました。資料の裏付けをベースに飽きさせないお話しでした。
- ・ 話は分かりやすかった。
- ・ 人それぞれですが、私にとっては少し学術過ぎたような気がしました。歴史的にはかなり高尚な講義であったかと思います。もう少し歴史的な面白さも欲しかった。
- ・ 寺領安堵の証文が時の権力者から度々発行されている状況がよく分かった。
- ・ 豊富な資料（古文書）から時代を繙くことの面白さが伝わってきた。そのことにより、金沢の歴史がより身近に感じられた。
- ・ 永享の乱の話が少なかった
- ・ たいへん詳しいご説明ありがとうございました。金沢、六浦、釜利谷について深く知ることができました。時間切れが残念でした。
- ・ 鎌倉 VS 金沢の関係が良くわかった
- ・ 地元地域の勉強になりました。
- ・ 資料とお話がとても分かりやすく、興味深く聞くことができました。
- ・ 古文書の見方が少しわかりました。生活に密着した感じで当時の人々の様子が目に浮かぶようでした。
- ・ 金沢区近郊のお話しに、白山道等を散歩しておりましたので、わが町の歴史を知れたことでとてもよかったです。）
- ・ 室町時代の金沢の周辺地区の様子が聴けて理解が深まりました。今はないお寺の存在とか現存の称名寺とかの活躍の様子がわかりました。

・教わったこと

存続の苦勞、欲望・宝物、役所（幕府）へのつてを頼りに献金、白山道のグループ化、尊氏の花押はNO1祈願寺のこと、大道通行税等、郷土史に興味がわきました。

- ・後半の最後を是非続けてお聞きしたい
- ・室町時代の金沢の様子が良くわかりました。
- ・後の席で声が良く聞こえなかった。
- ・楽しくお話が聴けました。豊富で上手なお話して時間が早く推移しました。
- ・元大学教授らしい歴史的資料に基づいた解説で古文書を学ぶものとしては己の学習の力量と努力を測ることもできてとても楽しい講演であった。史料がたくさん添付してあり、古文書の知識のない方は少し苦しかったと思うが……。語りもなかなか上手で老いを感じさせなかった。今更ながら、鎌倉と八景、文庫、釜利谷などのかかわりが強いことが理解できた。
- ・金沢の宗教勢力と足利氏の関係が明確に説明されており新たな視点として面白かった。金沢から見て足利氏が非常に近い存在だったことが分かりました。やはり、六浦湊の富が重要なファクターとしてあると思います。
- ・多くの資料に基づいた博識の講演だった
- ・郷土史の解説としては深かった。マイクの使い方が今一つで聞こえにくかった。
- ・廃寺の役割等初めて聴く話で大変参考になりました。
- ・鎌倉幕府の裏庭としての金沢地区の鎌倉時代後の様子の一端を垣間見ることができた。
- ・地元の話で興味深かった
- ・鎌倉と金澤・六浦の関係というのが良く判りました。本題の「永享の乱」について具体的に聞きたかったと思います。有難うございます。
- ・少し難しかった。話の展開が早い。
- ・資料の文字・数字が細かくて読めない。老眼のせいではかたないがもっと字を大きくして下さい。
- ・初めて聴く話も多く、興味深く聞いた。
- ・古文書に金沢のことが多く記されていることを初めて知った。称名寺の存在の大きさを改めて感じた。
- ・わかりやすかった。
- ・釜利谷在住のため、大変興味深く話を聞いた。
- ・わかりやすく面白かった。

②佐藤講師にご講演頂きたいテーマ

- ・称名寺／金沢文庫の歴史的意義、幕府との関係
- ・是非今日の続きをお願いしたい
- ・金沢の地名の由来等
- ・徳川時代の金沢について教わりたい
- ・関東動乱についてさらにお聞きしたいと思いました（上杉と足利）。今日お話しされなかった部分も含めてお願いしたい
- ・足利成氏からの古河公方の役割、鎌倉を去って以降の鎌倉・金沢での影響力および文化面での貢献など
- ・室町時代の永享の乱と金澤について

- ・鎌倉時代の北条と足利の関係（系図を観ると北条と足利は代々婚姻関係にあったようだが）
- ・今日は時間が少なかったので続きを講演していただきたい
- ・鎌倉公方の歴史。扇谷上杉と山内上杉の関係と歴史
- ・本日の残りを再度お願いしたい
- ・六浦の成り立ちを知りたい
- ・足利持氏、永享の乱を詳しく話していただきたい。
- ・結城合戦について

③学習会の運営について

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. 良くなかった
16名	21名	4名	0名

記入なし4

- ・資料もいただきわかりやすかった。
- ・マイクの使い方についてももう少し配慮を
- ・多人数の聴講者であったが、スムーズな運営ご苦労様でした
- ・早く入室できてよかった。講演の先生にハンドマイクではなくピンマイクを使用することはできませんか。ハンドマイクは重いので長時間は大変ですし、マイクが離れると聞き取りづらくなってしまいますので。
- ・マイクのとおりが弱い

④”わ”の会について、何でもお書きください。

- ・今回も楽しく講演を拝聴できました。7月学習会は細川重男先生の予定になっていますが、去年は所用で先生の講義は不参加でしたので今からとても楽しみにしております。ありがとうございました。
- ・資料の数が多すぎてもったいない気がします。委員の方の労力も大変なのは。
- ・今後も継続して講座をやってください。
- ・後ろの席の男性が会話を何回もしていてうるさかった。

運営委員代表の意見・感想

第2回学習会は”わ”の会初登場の千葉大学名誉教授、佐藤博信先生に「室町時代の鎌倉と金沢」と題した講演をしていただきました。

地元金沢を舞台にした講演で多くの資料を駆使し、わかりやすくお話しいただきました。そのため、会員の評価も高かったようです。

惜しむらくは時間が押して、永享の乱などの説明の時間が不足し、次回に続きの講演を望む声が多数ありました。

“わ”の会代表 鶴岡重典

令和6年度

第12回 古東海道の古刹めぐり

開催日：令和7年4月3日（木）天候 小雨

コース：京急新大津駅～諏訪神社～妙真寺(昇堂拝観)～曹源寺(昇堂拝観)～光心寺～
JR衣笠駅(解散)

参加者：会員16名、ビジター1名 計17名

当日は京急新大津駅に17名が集合。当日の天気予報が雨模様であったせいか欠席者が多く、少し寂しい探訪となった。気温10℃で小雨の中、諏訪神社に向かう。創建は天長元年（824）で信濃国諏訪大社から勧請された。祭神は建御名方命（たけみなかたのみこと）で武勇の神様。古来より「大津」は幕府の置かれた鎌倉や江戸に出入りする物資を中継する湊として東京湾を臨む舟の渡し場の役割を担ってきたと思われ、そこを見守ってきた祖神様（おやがみさま）として、「大津のおすわさま」と呼ばれている。



（諏訪神社）

この後、古東海道（近世の西浦賀道）に沿って寺社を訪れていくことになる。次の愛染稲荷は、文化14年（1817）に住民七兵衛が、稲の豊作を願って、江戸加賀町愛染寺の許しを受けて建立したと伝えられている。次の妙真寺への道中に根岸の庚申塔がある。天明8年（1788）から平成8年（1996）の庚申塔が集

められている。

妙真寺は山号が神金山、日蓮宗、本尊は日蓮上人坐像。応永元年（1394）公郷村の豪族、石渡入道妙浄が開基。大明（妙）寺、妙栄寺、妙真寺、妙蔵寺、妙覚寺と「妙」の字が付く五ヶ寺に祀られている日蓮上人坐像の内、妙真寺の座像が唯一元和6年（1620）に作られた姿を今にのこしている。鰐口（堂前につるされ、参詣者が綱を振って打ち鳴らす金属製の打具）は横須賀市指定重要有形文化財であり、現在は最近製作されたものが堂前につるされており、文化財現物を堂内で手にすることができた。また「神金の共有金の碑」があり、碑文には神金の豪農石渡家の12代賢素（通称 吉右衛門）が住民に毎晩一束の縄を作らせそれを売って妙真寺の補修や飢饉の際に住民の飢えを乗り切ったとある。



（妙真寺鰐口 市重文）

次に曹源寺に向かう。山号が東光山、曹洞宗、本尊は薬師如来。奈良時代後期に高僧行基が創建を伝える古刹で、古くは宗元、または宗源の文字を用いた。当時は三浦半島最大のお寺で宗元寺は三浦半島の政治、文化の中心的存在であった。現在の曹源の文字は、江戸時代再興の折に曹洞宗に属したことから使われるようになる。鎌倉時代初期の運慶派の作とされる木造十二神将立像は十二体がすべて揃っており国指定重要文化財（現在は県立金沢文庫に寄託）である。堂内ではレプリカが安置されていた。



（曹源寺 木造十二神将立像）

次の光心寺への道中に宝塔十字路の碑がある。日蓮宗金谷山大明寺と猿海山龍本寺を結ぶ道標となる碑である。鎌倉時代には、ここから佐野・不入斗を通って深田台の龍本寺まで、松並木の参道が続いていたと伝わる。

光心寺は山号が楠筍山、浄土宗、本尊は夢窓国師の作と伝えられる十一面観音菩薩像。本堂横には、忠魂祠堂(ちゅうこんしどう)というお堂があり、ここには大戦の戦没者と自衛隊の殉職者の位牌が奉られている。また大正3年に横須賀工廠で完成した軍艦比叡の鎮魂碑が昭和57年(1982)に建立された。



（光心寺 忠魂祠堂と軍艦比叡鎮魂碑）

出発以来ずっと傘をさしてJR衣笠駅に到着解散。

寒い中また小雨の中の探訪ではあったが、巡った寺社は何れも綺麗に保たれており檀家や氏子の普段の活動が感じられる。

（林 元一 記）

令和7年度

第1回 紙幣肖像人物の鎌倉の足跡と寸心荘見学

開催日：令和6年5月1日（木）天候 晴

コース：極楽寺駅(集合)～針磨橋～相馬黒光別荘地碑～新渡戸稲造別荘跡～津田梅子別荘跡～音無橋～有島生馬別荘跡～寸心荘（西田幾多郎博士記念館）～稲村力崎公園（解散）

参加者：34名

今回は紙幣に登場する人物をはじめとして、稲村ケ崎ゆかりの人物の足跡を訪ねる企画で、更に西田幾多郎記念館を見学した。また寺社を一つも訪ねないという、会にとってはユニークな探訪でした。

集合は極楽寺駅、ドラマによく登場する駅でもある。昔なら「俺たちの朝」、現在放送中の月9ドラマ「最後から二番目の恋」など。挨拶のあと江ノ電線に沿って稲村ヶ崎方面に出発。10分ほど歩くと鎌倉十橋の一つ針磨橋（我入道橋）がある。昔、この付近に針を磨く老婆が住んでいたとか、極楽寺の塔頭に住んでいた「我入道」という僧侶が針を磨いていたと言われている。

左の坂道を上ると道が切れるところに「黒光庵碑」が残されている。ここは相馬黒光の別荘地があった山の下で、黒光は夫の相馬愛蔵とともに新宿中村屋の創業者として知られている。



（江ノ電線路に沿って歩く）

江ノ電線沿いの道に戻り稲村ヶ崎駅を超えると新渡戸稲造別荘跡地（現在は聖路加国際大学鎌倉セミナーハウス「アリスの家」）がある。新渡戸稲造（1862～1933）（旧5千円札）は国際連盟事務次官を務め、著書「武士道」は流暢な英文で書かれ、日本人の精神や道徳観を広く世界に紹介した。

傍らの音無橋から山の方を見上げた茶色の四角い建物が、津田梅子別荘跡である。



（津田梅子別荘跡（茶色の四角い建物））

津田梅子（1864～1929）（新5千円札）は明治4年（1871）、岩倉具視使節団の一員として6歳でアメリカへ渡り、明治15年に17歳で帰国。華族女学校の教師となるが、明治22年に再度アメリカ留学。27歳で帰国し、女子高等教育の実現を志す。明治33年、女性の地位向上を目指して女子英学塾（現・津田塾大学）を創立し、後に「日本女子高等教育の先駆者」と称される。

音無橋を渡ると間もなく有島生馬別荘跡地（現在は老人ホーム「碧邸」）に着く。有島生馬（1882～1974）は有島三兄弟の一人、画家・作家として知られる。大正10年（1921）に空き家になっていた洋館を気に入り購入、「松の屋敷」と呼ばれた。昭和49年（1974）の没年まで約50年余りをここで過ごした。建物は現在、長野県の犀川のダム湖畔に移築されている。

更に進み右の坂道を上り「寸心荘（西田幾多郎博士記念館）」に到着。西田幾多郎（1870～1945）は大正から昭和にかけての哲学者。東洋と西洋の哲学を融合させ、「西田哲学」と呼ばれる哲学思想を確立。日本人初の哲学書「善の研究」（1911）は、今も哲学の必読書として親しまれている。「寸心」とは、自分の気持ちをへりくだってという言葉で西田はこの言葉を好んだ。現在、寸心荘は「学習院西田幾多郎博士記念館」と呼称し教育研究の場として利用されている。管理をしている先生に室内に展示された遺品や、ゆかりの品々を丁寧に説明いただいた。

（寸心荘入り口）



最後は稲村ヶ崎公園へ、岬の頂上に続く石段の手前に「西田幾多郎歌碑」がある。寸心荘にはこの歌碑の拓本があった。上りつめたところに、北里柴三郎（1853～1931）（新千円札）の師、「コッホ博士の記念碑」がある。北里柴三郎はコッホに学び、後にジフテリア血清療法を発見するなど世界的な細菌学者になった。明治41年（1908）にコッホが来日し極楽寺を訪れた時の記念碑で、コッホの結核菌発見100年を機に昭和58年（1983）にここに移された。

西の方を望むとゆるい弧を描いた七里ヶ浜や江ノ島が見渡された。公園内で解散し帰途につく。



（稲村ヶ崎公園から江ノ島方面）

前月とは打って違って好天に恵まれた。参加者34人は過去最大クラス。連休中だがコース途中の混雑などなく気持ちよく歩けた。寺社を訪ねない探訪もまた新鮮だった。

（横山 美智男 記）

第2回 日蓮上人ゆかりの大明寺と衣笠・平作の社寺を訪ねる

開催日：令和7年6月5日（木） 天候 晴

開催場所：横須賀市

参加者：32名（うち ビジター1名）

コース：JR衣笠駅（集合）～大明寺（本堂・釈迦堂拝観）～大光寺（昇堂拝観）～平作神社～大蔵寺～横須賀しょうぶ園前（解散）

今回は、日蓮上人ゆかりの寺と平作（ひらさく）の寺社を訪ねた。

集合は衣笠駅。横須賀線は昭和19年に横須賀から久里浜まで延長された。資材不足のため御殿場線を単線にしてレールを流用。衣笠駅は久里浜駅と設計を共通にして工期を短縮したので似た駅舎となっている。

平作川にかかる舞台橋を渡る。源頼朝旗揚げ時の三浦一族の棟梁だった三浦大介義明が、この近くに舞台を作り、地元の人間を響かした、と伝わる。そこから舞台橋という名前がついたと言う。

橋の脇から続く舞台坂を通過して、大明寺に向かう。



（大明寺本堂）

金谷山大明寺は、日蓮宗。建長 5 年（1253）米ヶ浜海岸に着岸された日蓮上人に帰依した土地の豪族石渡左衛門則久が「三浦法華堂」を建立。第六世日栄上人が「三浦法華堂」を明徳 3 年（1392）に当地へ移し、大妙寺と改称。徳川家康より 16 石を賜り、三浦半島の日蓮宗 32 ケ寺の総本山として栄えた。ある時、朱印状の「妙」の字を「明」と誤り書かれたことから「大明寺」となった、と。太田道灌の子資康の墓がある。資康は、三浦道寸義同の娘を妻としており、北条早雲と戦い戦死した。

大木となるメタセコイアがシンボルの野球場のある衣笠公園を通過して大光寺へ向かう。



（大光寺堂内）

大光寺は元亨元年（1321）に真言宗より法華宗（現日蓮宗）に改宗した。大明寺末寺主要五ヶ寺（妙蔵寺、妙覚寺、常勝寺、本園字、大光寺）の一つ。本堂入り口に住職が大明寺に行く時使用した駕籠がつるされており、「かご寺」とも呼ばれている。

日蓮宗大明寺末の大蔵寺の境内に瘡守稲荷（かさもりいなり）がある。



（瘡守稲荷）

瘡守稲荷は宝暦 4 年（1754）江戸で疱瘡が流行って多数の死者を出したことから村に厄除稲荷尊として祀った。文化元年（1804）郷土力士岩男浪（いわおなみ）が関西相撲との一戦を目指し日夜稽古に励んだが、悪病にかかり力も落ちた。大蔵寺のお稲荷さんに、お籠りしてお願いしたところ元の体に戻り、関西相撲に勝つことができた。不思議なご利益のお稲荷さんとして、家内安全等の祈願の参拝者が絶えない。

妙蔵寺には、時間が足りなくて行かなかった。

「しょうぶ園」は、14万株の菖蒲が植えられたおり、市制80周年を記念し昭和63年に開園した。今回は「しょうぶ園」の前のバス停で解散。そのまま菖蒲園に向かう人、衣笠駅に戻って反省会に行く人等別れて、帰途についた。

参加者32人と前回に続き30人超えた。暑くもなく、それほどの高低差もなく、衣笠、平作の散策を皆さん楽しんでいた。

（松崎 寛 記）

古文書を読む会 学習記録

開催日時 会場 テーマ	学 習 内 容	参加者
2025年 4月10日 (木) 金沢公会堂 第2会議室 箱根浴湯記	<p>新しいテキスト「箱根浴湯記」に移ってから2回目となる今回は、4ページから6ページまで進んだ。</p> <p>箱根の温泉巡りを目指した道程は、まず藤沢を通過し、平塚の鶴が峰八幡宮前を通り、大磯に出た。さらに国府津を通過して、酒匂川のほとりで休憩する。そして小田原に至る。文中に出てくる地名は、これまで見聞きしたり、訪問したことのある場所ばかりなので、違和感なく読める。しかしながら、文中に出てくる文言の中には、江戸時代以前の平安時代に使用されたと思われる用語も出てくるので、一語一語注意を払いながら読んでいかなければならない。一筋縄ではいかない。</p>	14名
2025年 5月8日 (木) 金沢区民活動センター AB会議室 箱根浴湯記	<p>今回は「箱根浴湯記」の7ページから9ページまでを精読した。</p> <p>道中、湯本の福住なにがしに泊まり、そして、徳川家菩提寺「増上寺」の末寺である「阿弥陀寺」を訪問している。この寺は弾誓上人によって開かれたお寺であり、塔ノ沢温泉郷のふもとにある塔ノ峰の中腹に位置することが綴られている。当時の箱根温泉郷を訪ねてみたいと思う人々にとっては、この「箱根浴湯記」が旅の様子を教えてくれる格好のガイドブックになっただろうと想像する。</p>	12名
2025年 6月12日 (木) 金沢公会堂 第2会議室 箱根浴湯記	<p>これまで毎月3ページ/月のペースで進んでいたが、来月から4ページ/月のペースで進むこととなった。従って、今回は10~12ページまで精読し、来月は13~16ページまで進捗することとなった。</p> <p>浴湯の折に近くにある神社への参詣に出かけ、身の回りに生じた出来事を記している。文面から推察するに、さぞかし気楽な旅に思われがちだが、当時の旅は準備も大変だったろうし、宿泊することから、食べるものまで心配しなくてはならない。また、自分の年齢を考慮して体調にも配慮しなければならなかっただろう。いずれにせよ、江戸中期の箱根街道筋の旅がどんな様子だったかが判って、興味深い。</p>	13名

「ふれあいの道歩こう会」実施概要 No.48

代表 江口 正彦

通算 第205回 足柄古道（一部石畳）

足柄古道は、別名を足柄道とも言い、古代に都と東国を結ぶ官道として多くの官人や武人が往来した日本でも有数の重要な道で、静岡県（駿河国）足柄から神奈川県（相模国）関本を結ぶ両県の境にある足柄峠（759m）を越える古道です。今回は、御殿場線の足柄駅から、足柄峠そして石畳を歩き地蔵堂、夕日の滝に行くコースを計画しました。

JR足柄駅は2020年に建てられた隈研吾（カ ケグ）デザインのモダンな駅舎の無人駅です。足柄駅前の足柄金太郎像前で集合写真を撮り、準備体操を行い9:35にスタート。一般道から林道に入り地蔵堂川沿いの足柄古道歩くと不動の滝（頼光対面の滝）に到着。さらに川沿いを歩くと銚子が淵に着く。小さな滝があり前日の雨で水量は多く迫力有り、周辺にムラサキケマン、シロボウエンゴサク、ニワトコの花などが咲いていた。しばらくすると小雨が降ってきた、虎御前入口を通りさらに行くくと車道に出る。さらに歩くと古道入口に出る。ここで、車道組と山道（古道）組に分かれる。足柄古道をしばらく登って行くとちょっと開けた場所に出る。ここからは、富士山が見えるはずが雨模様で全く見えず。しばらく歩くと車道に出る。ここで車道組と合流し上り坂を歩くと芭蕉の碑がある。さらに足柄峠目指して歩く、2カ所の六地蔵を通過、左側に階段がある、それを上ると昼食場所の足柄城址に到着。ここも富士山の展望地ですが全く見えません。東屋があり雨中ですが、全員屋根の下で昼食をとることが出来た。雨模様なので、夕日の滝をやめて、地蔵堂バス停より早めの始発便がある矢倉沢バス停に行くコースに変更。昼食後出発、「足柄之関跡」、「師柄山聖天堂」、そして「足柄明神跡」ここには白鹿が祀ってある。ここも見晴らしが良い所だが雨模様で矢倉岳、相模湾などは見えなかった。足柄万葉公園入口から古道(石畳)の予定でしたが濡れていて滑りやすいので、安全第一で車道を歩くことにし直接矢倉沢バス停を目指す。15:00に矢倉沢バス停に無事到着し、15:15発のバスに乗車出来た。関本(大雄山)バス停から大雄山線(大雄山駅)に乗換、小田原駅に到着(解散)

実施日：2025年4月24日（木） 天候：小雨

参加者：14名(男性12名 女性2名) コース所在地：静岡県駿東郡小山町、神奈川県南足柄市

交通：往路 金沢文庫 7:05 発 ⇒ 7:13 着 上大岡 7:22 発 ⇒ 7:33 着 戸塚 7:47 発 ⇒ 8:27 着
国府津 8:31 発 ⇒ 9:15 着 足柄（静岡）

復路 矢倉沢バス停（箱根登山バス）15:26 発⇒15:38 着 関本バス停⇒（徒歩）15:43 着
（伊豆箱根鉄道）大雄山 15:47 発⇒16:11 着 小田原（解散）

コースと時間：足柄駅 9:35 発⇒10:15 着 不動の滝（対面滝）10:20 発⇒10:25 着 銚子ヶ淵 10:30 発⇒
11:50 着 足柄城址（昼食）12:40 発⇒12:50 着 足柄峠（関所跡）（トイレ休憩）13:00 発
⇒13:05 着 足柄神社 13:20 発⇒（足柄万葉公園入口）⇒15:00 着 矢倉沢バス停



JR 足柄駅前



足柄明神白鹿堂

通算 第206回 陣馬高原下～陣馬山～和田

当初の計画は、山中湖湖畔の「高指山からパノラマ台」コースでしたが、下見の結果、バス時刻表改訂等でバス移動が難しいと判断し中止とした。代替りのコースとして最近人気がある陣馬山の「陣馬高原下～陣馬山～和田」コースを選択しました。

陣馬山は、東京都八王子市と神奈川県相模原市緑区との境界にある標高 854.8m の山である。従来は陣場山の字が使われた。関東山地の東縁に位置する山で、広く平坦な頂上のため陣馬高原とも呼ばれる。東京都立高尾陣場自然公園、および神奈川県立陣馬相模湖自然公園に指定されており、関東の富士見百景、多摩百山、かながわの景勝 50 選および八王子八十八景に選ばれている。

陣馬山のコースはいくつかありますが、今回は、高尾駅北口よりバスで、陣馬高原下までいき。バス停から徒歩 30 分の新道登山口から山道に入り、約 1 時間 30 分で陣馬山山頂に登り、山頂から和田バス停に下る最も楽なコースです。

陣馬高原下バス停側で体操をし、陣馬高原下をスタート、南浅川のせせらぎを聞きながら、30 分歩くと、新登山口に到着(途中シャガ、ミツデカエデ、ヒメウツギ、アマドコロ、スミシ、カキオドシ等が咲いていた)。

登山口から本格的な登山道に入り、沢沿いの道を歩き、途中から根っこがはびこってきつい勾配の山道を休み休み登っていき 1 時間 30 分で頂上に到着。途中多くのチゴユリとヤブレカサ、ニリンソウ、ムラサキケマン、マルバウツギ、キンラン、フジ等が見られた。

「陣馬高原」とも呼ばれる山頂は、平坦で広々としており、大きな白馬の像がある。山名の漢字は「陣場山」と記されることもあります。この像が建立されたことで「陣馬山」の表記が定着したと言われています。“陣場”の由来は諸説あり、戦国時代に北条氏と武田氏が対陣した場所であるから、とも伝えられています。1960 年代後半に京王帝都電鉄(現：京王電鉄)が、観光地として売り出すために山頂に白馬の像を建てて象徴化したようです。

山頂からの展望は、薄曇りであったが富士山を見ることが出来良かった。昼食とトイレを済まし 12:10 に清水茶屋脇の一の尾根コースを和田方面に下山を開始、最初は長い階段の下りがあるが、やがて通常の山道を下る。素晴らしい新緑が眼に優しく気持ちいい下りです。下山道の両脇には、多くのチゴユリ、ジュウニヒトエが咲いており、他にもナルコユリ、アマドコロ、イカリソウマルバウツギ、スミシなどが見られた。

第一和田分岐を取り過ぎ、少し行くと第二和田分岐に到着。休憩後この分岐を右折しさらに新緑の中を下っていく。やがて人家が見えてきた、きついコンクリー道路を下り終わると陣馬山登山口に 13:30 到着。

道脇の川には、イトトンボが飛び蹴っており癒やされました。そこから車道をくだり 13:40 に和田バス停に無事到着。14:10 発のバスに乗車し 14:24 JR 藤野駅に到着しました。(解散)

実施日：2025年5月15日(木) 天候：晴れ 歩行時間：約3時間 歩行距離 5.7km
参加者：11名(男性7名 女性4名) コース所在地：東京都八王子市、神奈川県相模原市
交通：往路：金沢文庫駅 6:22 発⇒6:39 着 横浜駅 6:43 発⇒7:46 着 東神奈川駅 6:54 発⇒7:51 着
八王子駅 7:59 発⇒8:05 着 高尾駅 高尾駅北口バス停 8:35 発⇒9:15 着 陣馬高原下
復路：J 和田バス停 14:10 発⇒(バス) 14:24 発 JR 藤野駅 14:38 発⇒15:05 着 JR 八王子
駅 15:05 発⇒16:01 着 JR 横浜駅
コース：陣馬高原下バス停 9:35→10:05 新道登山口→11:40 陣馬山 12:10→12:35 和田分岐
13:00 和田第2分岐→13:30 陣馬山登山口→13:40 和田バス停



新登山道途中休憩



陣馬山山頂

通算 第207回 八王子城址

10年前に八王子城跡御守殿付近、多摩森林学園、武蔵野陵を歩いているので、今回は八王子神社、本丸跡、松木曲輪(展望台)と八王子城跡御守殿付近に行き時間があれば武蔵野陵に行くコースです。

高尾駅北口よりバスで、霊園前バス停下車し車道を歩き閑窓寺に 8:25 到着集合写真撮影。門前には、立派なシモツケの花がさいており、付近にはオオバジュノヒゲ、キイチゴの実、クワの実等もあった。

少し行くと北条氏照によって再建された宗関寺に着いたが、改修中で中には入れなかった。その先を右折し北条氏照及び家臣墓に向う。北条氏照の墓などを参拝し元の道に戻り八王子城跡ガイダンス施設に 9:20 に到着。水分補給と八王子城関係の展示等を見学。ここから八王子城本丸を目指し登山道を登り始める。

八王子市には猛暑予報が出ているので、こまめに水分補給休憩をとりながら登って行く。8合目柵間台を通り9合目で休憩、中の丸にある八王子神社に向う。途中開けた所もあり霞んではいたが西武ドーム、八王子方面他高層ビル群がいくつか眺められた。少し歩いて開けた場所に入ると「頂上」という石碑が建っておりその先に本丸周辺の曲輪の説明板がある。10:20に八王子神社到着し集合写真撮影。そこから少し登り本丸跡に行きそこから戻り松木曲輪(二の丸)に行き石碑前の広場で昼食タイムとした。松木曲輪(二の丸)展望台に立つと、落城由来の記念碑が二基立っており、そこからは高尾山と多摩御陵から八王子市街を見渡すことが出来た。本丸への山道では、多くのオカトラノオをはじめ、ユキノシタ、トリアシショウマ、ヒヨドリバナ、ヨウシュヤマゴボウ、ヒイロタケ、テイカズラ等が見られた。

松木曲輪から、東屋を通り登ってきた道を下り管理棟脇に出てそこで休憩。管理棟から曳橋に向うが、途中川淵に望遠レンズ付カメラを構えた多くのバードウォッチャーが居ました。八王子城跡はこの時期は野鳥が多く、サンコウチョウとキビタキが注視されているようです。特にサンコウチョウは珍しく雛を撮るために巣を探しているがなかなか難しいとのこと。

橋を渡り城山川沿いに歩くと大手門の門跡から古道となる、道沿いにヤマアジサイが咲いていた。その先で曳橋を渡り虎口(幅広い石段)を通り、冠木門を潜り、御主殿跡に着く。御主殿跡は、発掘調査では「主殿」「会所」と推定される大型の礎石建物跡や、池を中心とする庭園、敷石通路、水路等の遺構が発掘された。

ここには、ニワセキショウ、ユウゲショウ、ムラサキカタバミ、オオイヌフグリ、ハハコグサ等が咲いていた。

管理棟前のベンチに戻り休憩。猛暑の中での山歩きなので皆さんの疲れ具合を確認し、武蔵野陵の見学は取りやめることにした。

時間の余裕があるので冷房の効いたガイダンス施設に戻り着替えと休憩行い出発。徒歩で霊園前バス停まで行き、バスで高尾駅に無事到着(解散)

実施日：2025年6月19日(木) 天候：晴れ 歩行時間：約4時間 歩行距離 約10.6km
参加者：16名(男性12名 女性4名) コース所在地：東京都八王子市
交通：往路：金沢文庫6:11発⇒(京急)6:27横浜着6:32⇒6:34京急東神奈川⇒6:40JR東神奈川
6:46⇒7:43八王子7:52⇒7:59高尾
復路：霊園前バス停14:16発⇒高尾駅14:49発⇒横浜駅15:40着
コース：高尾駅北口8:10⇒8:15霊園前バス停⇒8:25閑窓寺8:35⇒8:50北条氏照墓9:00⇒9:20
八王子城ガイダンス施設9:40⇒10:109合目⇒10:20八王子神社10:30⇒10:50松木曲輪
(昼食)11:30⇒12:00管理棟八王子城跡碑(休憩)12:30⇒13:00曳橋⇒13:05御主殿跡13:15
⇒13:35八王子城ガイダンス施設(休憩)⇒霊園前バス停⇒高尾駅



八王子城本丸跡



虎口(御主殿跡)

おとなのけんか (Carnage)

観賞日 2025年4月14日 上映時間 80分

【参加者：47名】

【概要】

- 制作 2011年 フランス、ドイツ、ポーランド、スペイン
- 監督 ロマン・ポランスキー
- 脚本 ヤスミナ・レザ、ロマン・ポランスキー
- 原作 ヤスミナ・レザ 『大人はかく戦えり』
- 音楽 アレクサンドル・デスプラ
- 撮影 パヴェル・エデルマン
- 出演 ジョディ・フォスター (ペネロピ・ロングストリート)
ジョン・C・ライリー (マイケル・ロング・ストリート)
ケイト・ウィンスレット (ナンシー・カウマン)
クリストフ・ヴァルツ (アラン・カウマン)



【あらすじ】

ニューヨーク、ブルックリン。公園で遊んでいた少年たちが言い争いを始める。やがて、争いがエスカレートし、11歳のザッカリー・カウアンがイーサン・ロングストリートを棒で殴打。イーサンは前歯2本を折るという怪我をする。その後、加害者ザッカリーの両親アランとナンシーが、被害者イーサンの両親マイケルとペネロペの家に謝罪にやって来る。マイケルは金物商、妻のペネロペはアフリカ好きの作家、アランは製薬会社の顧問弁護士、妻のナンシーは投資ブローカーと4人はそれぞれ仕事を持っていた。子育てなど面倒なことは私に押し付けているとあってナンシーがアランを攻め夫婦げんかが始まる。酒の勢いもあって、売り文句に買い文句、今度はカウアン夫妻がけんかを始める。敵味方が入れ替わり、今度は夫同士対妻同士の組み合わせに変わる。やがて、4人はそれぞれが勝手に言いたいことを言い始め、収拾のつかない状態になる。

子供のけんかがより始末の悪いおとなのけんかに変わる。トニー賞受賞の舞台劇「大人は、かく戦えり」をロマン・ポランスキー監督が映画化。

【解説】

■ポイント

●ロマン・ポランスキー (1933年～)

ユダヤ教徒の父とカトリック教徒の母との間にパリで生まれる。3歳でポーランドに引っ越す。大戦中、アウシュヴィッツに連行されるが生き延びる。1962年、「水の中のナイフ」で監督デビューし、注目を浴びる。その後、渡米し「ローズマリーの赤ちゃん」(68年)でハリウッドデビュー。同年、女優のシャロン・テートと結婚するが、翌年チャールズ・マンソンによりシャロン・テートが殺害される。78年、未成年女子への性的暴行罪で有罪となり、フランスに逃亡。「戦場のピアニスト」(02年)でアカデミー賞監督賞を受賞するが授賞式には不参加。



■見どころ

●セリフのある登場人物は4人

オスカー俳優たちの緊迫のコメディ劇

●ロングストリート夫妻が帰ろうとするたびに何かが起きる

●ラストシーン

おとなのけんかをよそに公園で仲良く遊ぶ子供たち。捨てられても元気なハムスター。

最強のふたり

観賞日 2025年4月28日 上映時間 112分

【参加者：38名】

【概要】

制作 2011年 フランス

監督・脚本 エリック・トレダノ、オリヴィエ・ナカシュ

音楽 ルドヴィコ・エイナウディ

撮影 マチュー・ヴァドヴィエ

出演 フランソワ・クリュゼ（フィリップ）、オマール・シー（ドリス）
オドレイ・フレーロ（マガリー）、アンヌ・ル・ニ（イヴォンヌ）



【あらすじ】

パリ市内の豪邸、屋敷の主フィリップの介護人を選ぶ面接。フィリップはパラグライダーの墜落事故で首から下が麻痺してしまっていた。面接に訪れた者は、異口同音に自分のセールスポイントを訴える。そんな中、一人の黒人青年にフィリップは目を止める。その青年ドリスはスラム街に住み、失業手当を受給するためにやって来たと話す。フィリップは周囲の反対を押し切って、粗野だが正直で腕力が強いドリスを採用する。ドリスはフィリップの屋敷に住込み、フィリップの手足となって働くことになる。やがて、フィリップをはじめ屋敷内の人々もドリスの存在を認めドリスに心を開くようになる。最愛の妻を亡くし、目下独身のフィリップには文通相手がいたが、フィリップは自分が障害者であることを言い出せないでいた。フィリップはドリスの家庭環境を考慮して関係を終了する決意をする。しかし、その後ドリスの存在の大きさに気づきドリスを呼び寄せる。ドリスはフィリップには内緒で文通相手とのデートをセットして・・・。

実話をもとにして、フランス国内はもとより、世界的に大ヒットしたヒューマンドラマ

【解説】

■ポイント

●フランソワ・クリュゼ（1955年～）

パリ出身。演劇学校卒業後80年に銀幕デビュー。「殺意の夏」（83年）で注目を浴びる。フランス国内ではテレビ・舞台でも活躍し、その後アメリカにも進出。本件で東京国際映画祭最優秀男優賞を受賞。



●受賞

- ・2013年第36回日本アカデミー賞：最優秀外国作品賞
- ・2012年第37回セザール賞：9部門でノミネートされ下記1部門で受賞
主演男優賞受賞（オマール・シー）

■見どころ

●フィリップが周囲の反対を押し切ってドリスを雇い、ドリスに心を許した理由は

●境遇が全く違う二人

フィリップ：白人、富豪、中年、障害者、クラシック音楽愛好家

ドリス：黒人（移民）、貧乏、青年、健常者、ダンスミュージック好き

●フランス国内における移民の地位

スウィングガールズ (Swing Girls)

観賞日 2025年5月12日 上映時間 105分

【参加者：44名】

【概要】

制作 2004年

監督・脚本 矢口史靖

音楽 ミッキー吉野、吉本ひろし

撮影 柴主高秀

出演 上野樹里（鈴木友子・テナーサクソ）、貫地谷しほり（斉藤良江・トランペット）
本仮屋ユイカ（関口香織・トロンボーン）、平岡祐太（中村拓雄・ピアノ）
豊島由佳梨（田中直美・ドラムス）、竹中直人（数学教師）



【あらすじ】

東北地方の片田舎にある山河高校。高校野球地区予選応援に出かけた吹奏楽団部員が集団食中毒にあう。そのため急遽代役として召集されることになった女子高生たち。楽器演奏は全く初めてという彼女たちは演奏以前の基礎体力作りからスタートする。ところが、ようやく上達してきた矢先に正式部員の体調が回復し、新米部員はお役御免となる。しかし、ジャズ演奏の楽しさに目覚めた新米部員たちはあきらめきれない。今度は自分たちでジャズ演奏をするビッグバンドを結成。やがて技術が上達しメンバーも増え本格的になったスウィングガールズは東北学生音楽祭への出場を決める。そして、いざ音楽祭当日。友子の申込み忘れのミスにより出場が危ぶまれたが、幸運もあり何とか出場できるようになる。そこで演奏されるジャズの名曲。最後は会場を巻き込んだ圧巻の「シング・シング・シング」の演奏。

無気力な落ちこぼれ女子高生を目覚めさせた音楽の力。コメディタッチで描く青春群像劇。

【解説】

■ポイント

●矢口史靖監督の青春映画（本作以外）

ウォーターボーイズ：2001年、妻夫木聡主演

ロポジー：2012年、ミッキー・カーチス主演

●若手スターを多数輩出

上野樹里：1986年生れ、「のだめカンタービレ」「江～姫たちの戦国～」(NHK大河・主演)

貫地谷しほり：1985年生れ、「ちりとてちん」(NHK朝ドラ・主演)

本仮屋ユイカ：1987年生れ、「ファイト」(NHK朝ドラ・主演)

平岡祐太：1984年生れ、「キッズ・リターン再会の時」

■聴きどころ

●劇中演奏された主な名曲

「この素晴らしい世界」：ルイ・アームストロング（猪に追いかけるシーン）

「故郷の空」：スコットランド民謡（横断歩道を渡った後）

「イン・ザ・ムード」：ジョー・ガーランド（学校の屋上で演奏）

「ムーンライト・セレナーデ」：グレン・ミラー（音楽祭で演奏）

「メキシカン・フライヤー」：ケン・ウッドマン（音楽祭で演奏）

「シング・シング・シング」：ベニー・グッドマン（音楽祭で演奏）

「L.O.V.E.」：ナット・キング・コール（エンディング）

レイダース/失われたアーク〈聖櫃〉 (Raiders of the Lost Ark)

観賞日 2025年5月26日 上映時間 115分

【参加者：37名】

【概要】

制作 1981年 アメリカ

監督 スティーヴン・スピルバーグ

脚本 ローレンス・カスタン

音楽 ジョン・ウィリアムズ

撮影 ダグラス・スローカム

出演 ハリソン・フォード (インディアナ・ジョーンズ)、カレン・アレン (マリオン)
ポール・フリーマン (ベロック)、ロナルド・レイシー (トート)



【あらすじ】

1936年、アメリカで著名な考古学者インディアナ・ジョーンズ (インディ) のもとに、米陸軍情報局の幹部がやって来る。エジプトの古代都市タニスでモーゼの十戒が刻まれた石板を納めた聖櫃 (アーク) をヒトラーが探し回っているという情報を傍受したという。アークを所持した者は、神のエネルギーを持ち無敵の力を与えられるという噂があることから、陸軍はナチスより先にアークを探すよう専門家のインディに依頼をする。インディはアークの在りかを探す青銅のメダルを所持するレイブウッド教授を訪ね教授の住むネパールに飛ぶ。しかし、教授は既に亡くなっており教授の娘でかつてインディの恋人であったマリオンがエジプトにインディと同行する。エジプトに到着するなり、二人は敵に襲れる。敵はナチスと組んだ考古学者のベロック。ベロックは学者としてもインディのライバル。インディは敵陣に乗り込み首尾よくアークの在りかを見つけ出すがベロックに横取りされる。アークのあった洞窟から脱出したインディはアーク奪還のためベロック等を追跡し、見事奪還に成功する。しかし、船で輸送中またしてもアークを奪われる。秘密基地に着いたベロック等ナチス一味がアークのふたを開けると突然すさまじい光が放たれ・・・。

アドベンチャー映画の決定版。「インディ・ジョーンズ」シリーズ第1作。

【解説】

■ポイント

●シリーズ (監督・スティーヴン・スピルバーグ、主演・ハリソン・フォード)

第1作：本作

第2作：「インディ・ジョーンズ/魔宮の伝説」(1988年)

第3作：「インディ・ジョーンズ/最後の聖戦」(1989年)

第4作：「インディ・ジョーンズ/クリスタル・スカルの王国」(2008年)

第5作：「インディ・ジョーンズと運命のダイヤル」(2023年)

●受賞 (54回アカデミー賞)

9部門にノミネートされ下記5部門で受賞

視覚効果賞、編集賞、美術賞、音響賞、特別業績賞

■見どころ

●学者なのに強い強いインディ

007 ジェームズ・ボンド張りの大活躍をするインディ

●ジョン・ウィリアムズ作曲のテーマ曲「レイダース・マーチ」

誰もが一度は耳にしたことのある軽快なテーマ曲

男はつらいよ 望郷篇

観賞日 2025年6月9日 上映時間 88分

【参加者：40名】

【概要】

制作 1970年 松竹
監督 山田洋次
脚本 山田洋次・宮崎晃
原作 山田洋次
音楽 山本直純
撮影 高羽哲夫
出演 渥美清（車寅次郎）、倍賞千恵子（さくら）、前田吟（諏訪博）、森川信（車竜造）
長山藍子（三浦節子）、井川比佐志（木村剛）、杉山とく子（三浦富子）
笠智衆（御前様）、津坂匡章（川又登）、松山省二（石田澄雄）



【あらすじ】

夢でみたおいちゃんの不幸が心配になり故郷柴又に帰った寅さん。おいちゃんの様子が本当に悪いと勘違いし大喧嘩になる。そこにかつての舎弟の登がやって来て、札幌の政吉親分が重病で、寅さんに会いたがっていると話す。義理人情に篤い寅さんは札幌に急行。政吉親分は寅さんに会ったこともない息子の捜索を頼む。小樽でようやく探し当てた息子は自分を捨てた父親に会おうとしない。渡世人の哀しい末路をみた寅さんは、やくざ稼業から足を洗い地道でまっとうな暮らしを始めようと決意する。寅さんは柴又の近くの浦安で豆腐屋に住み込み額に汗し油にまみれて懸命に働く。豆腐屋の娘の節子に片想いした寅さんは、節子にこのままずっとここで働いてといわれ勘違いするが、節子には木村という結婚を約束した相手がいる。。。。

笑って泣かせる人情喜劇の決定版。今回は地道な生活にあこがれる寅さん。

【解説】

■ポイント

●第5作：望郷篇

- ・ロケ地：北海道（札幌・小樽他）、千葉県（浦安市）
- ・ゲスト：長山藍子（マドンナ）、井川比佐志、杉山とく子

●映画「男はつらいよ」シリーズの前身となるTVドラマ

- ・放送：1968年10月～1969年3月、フジテレビで26回放送
- ・スタッフ：演出・小林俊二、脚本・山田洋次
- ・キャスト：寅次郎・渥美清、さくら・長山藍子、おいちゃん・森川信
おばちゃん・杉山とく子

■見どころ

●やくざ稼業と地道な暮らし

断腸の思いで登と縁を切る寅さん
足を洗いたくても、洗えない寅さん

●新旧さくらの対面

テレビドラマのさくら（長山藍子）と映画のさくら（倍賞千恵子）

●まだやくざ色の残るこの頃の「男はつらいよ」シリーズ

1970年当時はまだ、東映やくざ映画の全盛時代

太陽がいっぱい (Plein Soleil)

観賞日 2025年6月23日 上映時間 118分

【参加者：39名】

【概要】

制作 1960年 フランス・イタリア

監督 ルネ・クレマン

脚本 ポール・ジェゴフ、ルネ・クレマン

原作 パトリシア・ハイスミス

音楽 ニーノ・ロータ

撮影 アンリ・ドカエ

出演 アラン・ドロンの(トム・リプレー)、マリー・ラフォレ(マルジュ・デュヴァル)

モーリス・ロネ(フィリップ・グリーンリーフ)、ビル・カーズ(フレディ・マイルズ)



【あらすじ】

貧しく成り上がり指向が強い青年トム・リプレー。トムはフィリップの父親から成功報酬5000ドルで放蕩息子のフィリップをローマからサンフランシスコに連れ戻して欲しいという依頼を受ける。しかし、フィリップは戻る気が全くない。ある日、トムはフィリップと彼のフィアンセでパリジェンヌのマルジュと三人でヨットに乗り込む。途中でマルジュが下船した後、船上でトムは日頃の鬱憤を晴らすかのようにフィリップを殺害する。その後、完全犯罪を目指すトムはフィリップに成りすます。しかし、フィリップの友人フレディに危うく正体を見破られそうになりフレディをも殺してしまう。トムはフレディ殺しの犯人を既に死んでいるフィリップに被せようと企む。フィリップの財産とマルジュの愛情を手にいれたかのようにみえたトムであったが・・・。

圧倒的なオーラと色気。アラン・ドロンの魅力がいっぱい。ドロンの24歳の出世作

【解説】

■ポイント

●アラン・ドロンの(1935年～)

パリ郊外で生まれる。17歳で海兵隊に志願し、インドシナ戦線に従軍。除隊後「女が事件に絡む時」(57年)で映画デビュー。本作でスターに。

その後の代表作：「若者のすべて」(60年)、「山猫」(63年)、

「冒険者たち」(66年)「ボルサリーノ」(70年)。

戦後のフランス映画を代表する大スター。世紀の二枚目と呼ばれた。



■見どころ、聴きどころ

●天国から地獄へ一気に転落する、有名なラスト・シーン

●トムとフィリップの対比

トム(アメリカ人を象徴する名前)：新興勢力、若い肉体

フィリップ(フランス人を象徴する名前)：過去の遺産、放蕩

●イタリアの美しい街並みと紺碧の地中海を撮るアンリ・ドカエのカメラ

●哀愁のなかにも甘美さを秘めたニーノ・ロータのテーマ曲

パソコンを使いこなす会 実施報告【21】

2025年4月～6月

- 2025年度 第1回分科会
- 日時：2025年4月8日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：WORD 講座 ー書式設定（チラシ作成）ー
 1. 図形Aの作成
 2. 図形Bの作成
 3. 図形の整列
 4. 図形のグループ化
 5. 文字の入力
 6. 画像の挿入
 7. ワードアートの挿入
 8. 文字の書式
- 参加者：15名 + Z1名
- テキスト：パソコンを使いこなす会_2025年4月8日_テキスト



このQRコードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。

2025年度 第2回分科会

- 日時：4月15日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：Windows 講座 ー Pdf ファイルの編集 ー
 1. PDF を作成する
 2. PDF の編集
 3. PDF 編集ツール（Pico PDF）
 4. 「I love PDF」サイト
- 参加者：16名
- テキスト：パソコンを使いこなす会_2025年4月15日_テキスト



このQRコードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。

2025年度 第3回分科会

- 日時：5月6日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：WORD 講座 － 画像編集 －
 1. ツールバーで使用するアイコン
 2. 明るさ/コントラスト
 3. 色の変更
 4. アート効果
 5. トリミング
 6. 図のスタイル
 7. 背景の削除
- 参加者：16名 + Z2名
- テキスト：パソコンを使いこなす会_2025年5月6日_テキスト



この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。

2025年度 第4回分科会

- 日時：5月20日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：Internet 講座 － AI 検索 －
 1. 検索の歴史
 2. コパイロット（Microsoft Copilot）とジェミニ（Google Gemini）
 3. スマホで Gemini アプリを使う
 4. スマホで Copilot アプリを使う
 5. スマホ版 Gemini アプリの検索結果を活用する方法
 6. スマホ版 Copilot アプリの検索結果を活用する方法
 7. パソコンの Chrome で Gemini を使う方法
 8. パソコンの Edge で Copilot を使う方法
- 参加者：12名 + Z2名
- テキスト：パソコンを使いこなす会_2025年5月20日_テキスト



この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。

2025年度 第5回分科会

- 日時：6月3日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：WORD 講座 － 書式設定 －
 1. 文字列揃えを変更する
 2. 文字に効果を付ける
 3. インデントを設定する
 4. スタイルの設定
 5. テーマの設定
 6. フォントの設定・変更
 7. 箇条書きを設定する
 8. 段落記号を設定する
 9. ページの背景の設定
- 10. 罫線を引く
- 11. 背景を印刷する設定
- 参加者：14名 + Z2名

2025年度 第6回分科会

- 日時：6月17日（火）9：30～12：00
 - 場所：八景コミュニティハウス
 - 内容：Windows 講座 － Explore －
 1. エクスプローラーを開く方法
 2. エクスプローラーの構成要素
 3. 基本的な操作
 4. 便利な機能
- 付録：Windows 11 のエクスプローラーを使いこなそう
- 参加者：14名 + Z2名
 - テキスト：パソコンを使いこなす会_2025年6月17日_テキスト



この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。

浮雲俳句会 20 周年記念俳句集

「浮雲俳句会」20 周年のお祝い

“わ”の会代表 鶴岡重典

「浮雲俳句会」20 周年、おめでとうございます。「継続は力なり」と申しますが、一つのことを 20 年間続けるというのは大変なエネルギーを必要とすることです。それをなしとげて来られた「浮雲俳句会」の役員及び会員の皆様に改めて敬意を表します。私も“わ”の会の 6 分科会の一つである「懐かしの映画を観る会」を 15 年の長きにわたり主導されてきた佐藤晃さんの後任として、今現在、主宰しております。「懐かしの映画を観る会」が昨年度、20 周年を迎えたことから、記念事業を行いました。準備期間として 2 年ほどの期間を要しながら何とか無事になしとげたことを思い出します。貴会におかれましても、これからもまだ、困難が待ち受けていると思います。しかし、そこは 20 年間で培った様々な経験、実績をもとに様々な難局に立ち向かっていかれることを期待致します。

20 周年を振り返って

浮雲俳句会代表 小俣悦男

浮雲俳句会は平成 18 年に「俳句とは生きた証の一行詩」である、とご指導いただいた北野主宰のもと 18 名でスタートしました。10 周年記念には 140 ページに及び句集を発行しましたが、高齢化が進む状況の中、如何に 20 周年の足跡を形に残すか苦慮しました。会員数 12 名（5 月末現在）、ワイワイガヤガヤ楽しんでおり、俳句に興味のある方の参加を心待ちにしております。北野主宰が逝去された後は皆で問題点などを批評しあう合評方式を採用、全員が作句内容のレベルアップを目指し強力な句会リーダーのもと研鑽を積み上げ、此処 4 年で 3 名の新会員もあり、生き生きとした活動に目を見張るものがあります。あらためて継続することの大切さを実感しております。末尾になりましたが“わ”の会の鶴岡代表、会報担当の星野副代表には会報への掲載に際し格別なご協力を頂いたこと厚くお礼申し上げます。

【年明くる】 大黒栄子

兵役の今はなき国年明くる
筆書きの賀状いち枚手に重き
雨しづく小枝に残る余寒かな
どの花も満開の時ありにけり
行く春や玉碎の文字いしぶみに
みつみつと匂ふ野島や新樹光
樽咲く立方体の石の椅子
反橋の頂きに聴く夏うぐひす
団栗の落ちたる向きのさまさまに
立冬の風音はらむ大樹かな

縁あって浮雲俳句会に入会し一年余。新たな出会いと発見に感謝。
この思いは人に限らず生き物や言葉の世界にも及んでいる。

【浮雲】 太田重九

浜どんど達磨を舐める火炎かな
花散るや浮雲高くひかりをり
陸奥生れ小柴育ちの帆立貝
海霧に引き込まれゆく小舟かな
偕老やけんかの果ての夏の月
葡萄食ふ一粒づつの黙ありて
月に暈「明日は雨じや」と婆教へ
富士五湖や映す寒富士影五景
時雨忌や湖岸の灯火けぶりをり
兄耄け無情を知るや冬の月

重篤から生還十年、浮雲に入会二十年。冬雲雀候いつか碧空での囀りを夢見て句作と句会を楽しむ。俳句は耄け予防と仲間作りに良し。

【一番星】 大谷二祥

この先は全てなりゆき屠蘇祝ふ
啓蟄や窟の奥に動くもの
下萌や近江の城は野面積み
迎え梅雨祇園白川翼橋
蚊遣香逆さのの字や納屋仕事
峡の宿闇にしみいる河鹿笛
また一人減りて棚田の鳥威し
鯨飛ぶや一番星の舟溜まり
方丈や一輪挿しの冬至梅
湯豆腐のひとつ崩して手酌かな

私の俳句の題材は旅行と散策です。四十七都道府県を現在、二周回を終えています。旅吟が多く、観光案内に過ぎない句も多い。

【月下美人】 小幡とも女

鶯や野島一島ふるはせて
夜桜の飛天の舞や狂ほしき
帯解き心解きて春夕月
肘枕月下美人の眠るまで
大空を譲られはしやぐ鯉幟
校庭へ弾き出る子ら梅雨晴間
手のひらの影ゆらめきて風の盆
ゴンドラの振る手返す手大花野
縁側に小春と猫と座りをり
雨戸繰る一枚ごとの雪景色

俳句は、吟行から生まれると考え、旅を重ねてきたが、加齢のため、適わなくなってきた。そこで近頃は、四時見慣れた風景を改めて見直してみることになっている。

【岡の西柴】 小俣一税

春耕やひと畝ごとの深呼吸
啓蟄や微笑み返す六地蔵
大瀑布連写の音を押し潰す
春陽や寄せる波間の白砂踏む
雲掴み雲を踏みつけ夏の嶺
夏の富士頂きに見る地球かな
秋耕の鋤の捌きや老い自慢
船溜片手に句帳秋手中
冬ざれや浪打ち砕け空に舞ふ
青空を割つて聳える雪の富士

五句目の「雲掴み雲を踏みつけ」句は七十歳代の時に憧れの北アルプスの常念岳（2857m）に登頂の折りに山頂で詠んだ句。

【横浜市最南端住】 菅井三旦

去年思ふ枕のラジオ深夜便
人気なき埋む駅舎に春來たる
招かれて恐る恐るの菜種河豚
斎場は卯の花腐し芳名帳
土用波見つむる漁師深き皺
七夕やテレビで思ふ北の街
芋の葉は雨宿り場所宿の猫
疫病や新蕎麦打つも容呼べず
ごみ屋敷主はいずこ冬の草
粉雪の眼下白米千枚田

故北野主宰の教えにより始めた俳句だが一向に上達しない。令和三年以降の句を新春から四季を追った。すべて駄句と反省。八句目はコロナ禍の情景。

【醉芙蓉】

鈴木勇平

地虫出るバトンガールの脚高し
彼岸入り大日如来に宇宙見ゆ
またひとつ灯りの点る能登の春
寄席太鼓白ひほのかに沈丁花
かたつむり不要不急の旅に出る
チェロケース抱ふ少女は片陰り
松虫やソロはお任せコーラス部
ソリストの腕のしなりや醉芙蓉
皮ジャンを粹に着こなす准教授
冬眠も目覚むる第九大合唱

二十年間も俳句を作り続けたことは、自分自身でも驚異です。私の趣味は音楽鑑賞です。俳句と音楽を結び付け楽しんでます。

【四季】

鈴田祥代

躓きつ生きる幸せ梅咲けり
みどり色地に点じたる路の臺
陽春やパステルカラーの花売場
逞しき蟻は静かに列をなす
好日やいつもどほりの冷奴
竹の春伸びて少年声変はり
コンサート余韻仄かに星月夜
はんなりと障子明りに観世音
野仏のすくつと細身空つ風
気儘勝手然れどこよと炬燵猫

私は主婦です。句作をしたり推敲をするのは、台所でお葱を切ったりしながらです。ですから俳句にお醤油の香りがしませんか？

【記念戯作句】 田中十九

花野行くうなじの磁力限りなし
花咲いて恥じらう闇の痴情かな
十五夜の頬に影うつ付睫毛
余能奈可波何を騒ぐと初日の出
ミサイルに味宿不寝夜長かな
木枯の寿者不知海の果て
靖国の桜の思ひとマHOOK
十七のままの戦友墓碑の霜
砲弾は山眠れども鳴り止まず
何時の世も戦争は無垢暖鳥

二十年の間、自分なり句創りに工夫をしてきたつもりです。特に、
中程の三句は「万葉仮名」を使ってみました。

【初時雨】 伊達一翁

九条の箍ゆるみけり春の雨
年寄りのワクチン話で梅雨明けぬ
四月馬鹿いつか白寿のクラス会
軒下に洪水跡や蚊遣り焚く
向日葵や哀しき都市よマウリポリ
スマホ捨て不貞寝の耳に蝉時雨
不機嫌なママと手酌の夜寒かな
八十はまだ若いのか初時雨
冬木立寅さんを観て昼寝かな
凍蝶に原発の闇深まりぬ

老化防止で入会しましたが迷走中。花鳥風月よりも現実に目を向けた句を心がけ余生を楽しめればと思います。

【古こけし】 中村二点

延々と後ろ手の婆麦を踏む
強東風や野球帽追ふ控えの子
窓越しの唯一片の花ひらり
夏祭り俄か仕立てのクラス会
亡き母の齢となりぬ走馬灯
抽斗の文殻出して秋の宵
団栗の落つるにまかせ散歩道
新松子朝日輝く八幡宮
ボロ市や人待ち顔の古こけし
朝練に向ふ轍や霜の道

当会に入会して三年が経過しました。諸先輩の皆様には遠く及ばないまでも、何とか句会に出席し楽しい時間を過ごす事ができました。ありがとうございました。

【水脈】 長島和女

風ひとつ遺伝子目覚む梅真白
夏潮の水脈曳く白帆野島沖
陽をよぎる風の使ひや黒揚羽
涼しきは白磁に青花描き終へ
闇揺らす惜別のこゑ秋の蟬
流星の天にこぼるる草枕
営みの火は刹那なり大銀河
石路の花光の束を天に投ぐ
冬鷺の狙い一閃波の跡
水仙花茎一本の立ち姿

これからも、自然の変化に敏感でありたいと思います。

【道程十年】 西村あきえ

七福を一服に込む初点前
飼ひ慣れし丹頂飛翔忘れしか
天神の絵馬持ち上げし春一番
春三日月星一つ載せ漕ぎ出せり
花筏お堀すべてを私す
龍華寺の牡丹慈愛の傘させり
蝉の羽化透き通る翅力満つ
白木槿今日一日を全うす
赤蜻蛉穂波を統ぶるタクトかな
伊能図の精緻なる筆冬日差す

全くゼロから始めて十年。目に入る物、体験、感じた事を句に。これ
からも素直に向き合って行きたいと思います。

あとがき（凡例）

- 一、本作品集は浮雲俳句会令和七年四月在籍
十三名の自選の十句です。
- 一、この十句は平成二十八年から令和七年
までの約十年間を詠んだ作品です。
- 一、作品の配列は次のとおりです。
 - ・名簿順（五十音順）
 - ・句順は新年から四季順
- 一、作品は文語表記、旧仮名づかいとした。
但し、作者の意思で例外も含まれる。
- 一、雑感横書き、新仮名づかいとした。

以上

行事予定

2025年9月～11月の予定

注：表中の「CC」は「地区センター」の略

	9月	10月	11月
学習会	9月14日(日) 金沢CC 13:30～16:30 【中世の民衆と生業】 青山学院大学准教授 谷口雄太氏	10月10日(金) みなとみらい地区 9:30～13:00 《探訪》【みなとみらいの40年】 NPO 法人横濱金澤シティガイド協会	11月8日(土) 能見台CC 9:30～12:30 【伊勢と西行法師】 鶴見大学他非常勤講師 石澤一志氏
寺社を巡る会	9月4日(木) 13:30～ 集合場所：市営地下鉄 センター北駅 テーマ：横浜市歴史博物館を 見学 学芸員による説明	10月2日(木) 10:00～ 集合場所：金沢文庫駅西口 テーマ：金沢の古刹禅林寺住職のお話 を聞く 訪問先：金沢文庫駅改札駅(集合)～ 釜利谷小川アメニティ～ 自性院など 經由～禅林寺(住職のお話、本尊拝 観)～坂本バス停(解散) 金沢ガイド	11月6日(木) 10:00～ 集合場所：JR 藤沢駅 訪問先：藤沢駅(集合)～江の島道と道標～ 船玉神社～感応院～藤沢橋～藤沢宿交流館～ 遊行寺(本堂昇堂、僧侶の講話)～長生院(昇堂) ～東門～藤沢駅(解散) 鎌倉ガイド 11月27日(木) 7:15～ 集合場所：イトーヨーカドー能見台店付近 テーマ：特別バス探訪 「紅葉の甲州に武田家ゆかりの寺を訪ねる」 訪問先：・景德院(田野寺)・天目山栖雲寺 ・恵林寺 役員会
古文書を読む会	9月11日(木) 10時～12時 場 所：金沢公会堂第2会議室 テーマ：箱根浴湯記	10月9日(木) 10時～12時 場 所：未定 テーマ：箱根浴湯記	11月13日(木) 10時～12時 場 所：未定 テーマ：箱根浴湯記
ふれあいの道歩こう会	9月18日(木) 予備日 20日(金) 日和田山と巾着田 埼玉県 日高市	10月16日(木) 予備日 17日(金) 城山～葛城山 静岡県 伊豆の国市	11月20日(木) 予備日 21日(金) 天覧山～多峯主山(とうのすやま) 埼玉県 飯能市
懐かしの映画を観る会	9月8日(月) 金沢CC 12:15～私を野球に連れてって 9月22日(月) 金沢CC 12:15～ 東京物語	10月13日(月) 金沢CC 12:15～ 卒業 10月27日(月) 金沢CC 12:15～ スパイの妻	11月10日(月) 金沢CC 12:15～ 踊る大捜査線 11月24日(月) 金沢CC 12:15～ ピンポン
浮雲俳句会	9月28日(日) 10:30～ 浮雲俳句会20周年記念句会 会場：晴嵐かなざわ 課題：金沢区吟行俳句2句	10月26日(日) 10:00～ 第200回句会 会場：晴嵐かなざわ 課題：当季雑詠3句、兼題1句	11月23日(日) 10:00～ 第201回句会 会場：晴嵐かなざわ 課題：当季雑詠3句、兼題1句
パソコンを使いこなす会	9月2日(火) 八景コミハ Internet 講座 -Google マップ- 9月16日(火) 八景コミハ Windows 講座 -文字コードと日本語- 9:30～12:00	10月7日(火) 八景コミハ WORD 講座 -段落- 10月21日(火) 八景コミハ PPT 講座 -パワーポイント②- 9:30～12:00	11月4日(火) 八景コミハ EXCEL 講座 -請求書作成- 11月18日(火) 八景コミハ Internet 講座 -Google マップのタイムライン- 9:30～12:00

連絡先

- ・学習会 045-785-6151(鶴岡) ・寺社を巡る会 090-1840-0916(横山) ・古文書を読む会 045-784-4900(真田)
- ・ふれあいの道歩こう会 080-6755-1473(江口) ・懐かしの映画を観る会 045-785-6151(鶴岡)
- ・浮雲俳句会 090-4056-2454(小俣) ・パソコンを使いこなす会 090-9375-9459(橋)

編集後記 連日の猛暑が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。 今年の夏は温暖化の影響もあり例年以上に気温の高い日が続いています。6月19日ふれあいの道歩こう会では炎天下の中、八王子城を散策しました。いつもと違い十分な水分補給と休憩をして炎天下に16名踏破しました。皆さん高齢化して年々体力が落ちているのが良く分かりました。「人と話す」「体を動かす」「頭を使う」この3つは脳の若さを保つカギになっていると言われてます。無理なく、楽しみながら、会員の皆さんと月1回再会できる事を楽しみに歩いています。お酒も程々にして食事と質の良い睡眠を取り、毎日明るく元気に過ごして猛暑を乗り切りましょう。 (熊谷信雄 記)	発行日	2025年8月22日
	発行月	年4回発行(2、5、8、11月)
	発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
	編集長	星野 六夫
	編集委員	浜辺 隆文 吉武 惇二 熊谷 信雄 橋本 啓治 中村 猛次 橋 博章 福嶋 恵美